第194話　俳諧⑦　松田未覚のこと　その4　中山町歴史散策

服部文右衛門家所蔵の「追善俳諧」に納められている35句の中には、追善俳諧には似つかわしくないものもあります。また、姉の一周忌のためのものらしいのですが、付録の文章がないので、どなたの追善なのかも不明となっています。しかし、この「追善俳諧」で、定章と未覚、また恐らく未覚の弟子であろう未辨などの存在がはっきりとしました。服部家一族や交際する人々の中にも俳諧をたしなむ者がいて、特に定章と未覚は歳頭として迎えられていたということが推し量られます。

長崎の新貝家は、忠清の祖母が左沢貫見の松田彦次郎家の出であり、未亡人は左沢の医師で俳人の花山抱琴の娘です。このような関わりから、松田の姓を名乗り、師匠未得の一字を受けた俳号の未覚を持って左沢に移ったものと考えられます。

当時、左沢は松山藩領で、後に松山藩主となる酒井忠預が、その母が左沢の郷士（ごうし）である保科主計の娘であることから、幼少の頃、左沢で育てられました。14歳の頃、俳号忠宗の名で句作を始めており、松田未覚の指導で上達したといわれています（「大江町史」より）。このように、年代を追ってみると、未覚が長崎にあったのは、長くても十数年のことであろうと思われます。

【用語の説明】

追善：死者の冥福を祈って生存者が善根（よい報いを招くもとになる行為）を修めること。

郷士：江戸時代、城下町に住む武士に対して、農村に居住する武士のこと。

※引用：中山町史　中巻「第10章第3節　文芸と美術工芸」から

私たち地域おこし協力隊です！ No.60

みなさんこんにちは！地域おこし協力隊の髙橋です！

みなさんは今年の夏はどこかにお出かけしましたか？僕はお盆に宮城県の実家に日帰りで帰省してきました。

さて、日常的に使っているスマホですが、お出かけの際には、ますます必要不可欠なものだなと実感します。少なくとも「地図やカーナビ」、「買い物の支払い」、「カメラ」、「目的地の情報検索、お店や宿泊先の予約」などで使っています。そのためスマホの充電がなくなると困ります。

いざというときに困らないように、みなさんは自宅以外でスマホを充電する方法を持っていますか。車載充電器や持ち運び式の充電器などがあります。お出かけのときに限らず、災害時にとても役立ちますので持っておくと便利です。

もっと詳しく知りたい方は「スマホよろず相談所」をご利用ください。

髙橋　圭哉
出身地：宮城県岩沼市
趣　味：けん玉、アニメ鑑賞

●協力隊への問い合わせ先●　髙橋 ☎662-2223（総務広報課）